

## 分 科 会 概 要

<b>第1分科会</b>	<b>【城の崎にて】</b>	<b>会 場：志賀直哉ゆかりの宿「三木屋」</b>	<b>定員：なし</b>
		<b>交流会：おけしょう鮮魚の海中苑</b>	
テーマ	歴史的建築物や町並みの活用によるにぎわいの創出 ～町並みを今に活かし、使い続ける～		
趣旨等	柳並木に木造3階建て旅館が立ち並ぶ城崎温泉の町並みは、日本の代表的な温泉地景観である。城崎温泉は木造3階建て旅館が日本で最も集積して残っている場所の一つであるが、防火・耐震等の基準が強化される中で、木造3階建て旅館は建物の増改築や改修が制限されている。分科会では、事例報告を踏まえながら、現在、城崎温泉の旅館などの歴史的建築物が抱える保存、活用にあたっての問題点やそれに対する対応策を整理し、次世代にも文化として保存し伝えていくべきことと、一方で安全性や快適性などの時代に合わせて進化させていかなければならないことを考える。		
キーワード	歴史的建築物の活用・木造3階建てのある町並み保存・登録文化財・国家戦略特区		
出演者	話題提供者 古田 篤司 氏 (栲湯のまち城崎 取締役) <b>【討議】</b> コーディネーター 福川 裕一 氏 (NPO法人全国町並み保存連盟 理事長) パネリスト 香山 篤美 氏 (NPO法人夢空間松代のまちと心を育てる会 理事長) パネリスト 中貝 宗治 氏 (豊岡市長) パネリスト 金野 幸雄 氏 (一般社団法人ノオト 代表理事) パネリスト 片岡 大介 氏 (城崎温泉旅館組合 理事)		

<b>第2分科会</b>	<b>【湯あみ】</b>	<b>会 場：元禄元年創業「ゆとうや旅館」</b>	<b>定員：なし</b>
		<b>交流会：おけしょう鮮魚の海中苑</b>	
テーマ	災害復興から学ぶ町並みづくり ～安全と景観の調和～		
趣旨等	大正14年の北但大震災により城崎温泉は焦土と化した。復興に当たり震災前のような和風の町並み整備による再生をめざした。外湯の再建、木造和風建築の町並み、太鼓橋、柳・桜並木、コンクリートによる火伏壁としての公共施設などの町並み整備を行い、景観保全と災害に強い町づくりを行った。分科会では、城崎温泉の復興計画を紹介するとともに各地の事例紹介を行い災害復興における町づくりの中で景観保全について考える。		
キーワード	北但大震災、復興計画、地域固有の町並みに配慮した復興 町並みや景観は住民のまちに対するアイデンティティ 被災した町並みや歴史的建築物の修復、保存 災害に強いまちづくり、水と緑のネットワーク		
出演者	情報提供者 中村 英夫 氏 (郷土資料収集家) <b>【討議】</b> コーディネーター 山崎 義人 氏 (兵庫県立大学大学院 准教授) パネリスト 越山 健治 氏 (関西大学 准教授) パネリスト 高橋 賢一 氏 (NPO法人小野川と佐原の町並みを考える会 理事長) パネリスト 渡辺 敏男 氏 (盛岡まち並み塾 事務局長) パネリスト 結城 紘一 氏 (城崎温泉町並みの会)		

<b>第3分科会</b>		<b>【芝居小屋】</b>	<b>会場：出石永楽館</b>	<b>定員：60人</b>
			<b>交流会：出石城山ガーデン</b>	
テーマ	歴史遺産の復活と活用に懸けるまちづくり ～なつかしい芝居小屋で賑うまち～			
趣旨等	出石には明治34年に建築された芝居小屋「永楽館」がある。昭和39年に閉館したが、住民運動の盛り上がりを受けて平成20年には大修理の末に復活を果たした、以降毎年、本格歌舞伎を上演して賑っている。全国には同様に芝居小屋の復活で活気を取り戻したまちがある一方、復活を夢見て活動中のまちもある。これからの「芝居小屋のある町並み」の在りようを検討する。			
キーワード	歴史的建築物・芝居小屋・復活・活用・まちづくり・住民意識			
出演者	話題提供者 奈良部和美 氏（全国芝居小屋大向こうの会） <b>【討議】</b> コーディネーター 荻谷 勇雅 氏（元文化庁文化財鑑査官、小山高専名誉教授） パネリスト 上坂 卓雄 氏（出石城下町を活かす会 顧問） パネリスト 木村 理郎 氏（全国芝居小屋会議 副会長） パネリスト 鳥居 直也 氏（福井県小浜市WACおばま 理事長）			

<b>第4分科会</b>		<b>【酒蔵】</b>	<b>会場：出石酒造第一酒造庫</b>	<b>定員：40人</b>
			<b>交流会：出石城山ガーデン</b>	
テーマ	活気と美しさを併せ持つ町並みづくり ～暖簾が似合う町並みへ～			
趣旨等	住民主体の町並み運動は、半世紀が経とうとしている。その結果、片や観光地して町並みに不調和な店舗や看板に悩ませる地区がある一方、空き家が目立ち、高齢化や後継者不足に悩む地区が増えるなど、二極化の傾向があるといわれる。「歴史的な町並みの美しさを維持向上させながら、いくつもの伝統家屋では店舗として商売が成り立ち、地区全体が往年の活気にあふれている、そのような町並みづくりの手法を先進地区及び皿蕎麦屋が並ぶ出石の事例を交えて模索する。			
キーワード	まちなみ・店舗・暖簾・看板・特産品・観光客・住民参加			
出演者	話題提供者 峯村 昌子 氏（産経新聞社サンケイスポーツ編集局 文化報道部次長） <b>【討議】</b> コーディネーター 八木 雅夫 氏（明石高専 教授） パネリスト 松居 秀子 氏（NPO法人 鞆まちづくり工房 理事長） パネリスト 石田伊久雄 氏（出石皿蕎麦協同組合 理事長） パネリスト 鳥居 正子 氏（石川県七尾市一本杉通り振興会 会長）			

第5分科会	【昭和の豊岡】	会 場：豊岡稽古堂 交流会：豊岡劇場	定員：50人
テーマ	復興建築物群とあゆむ人々の暮らし ～産業と文化遺産を活かしたまちづくり～		
趣旨等	豊岡の中心市街地は、大正15年(1925年)5月の北但大震災によって家屋の倒壊・焼損さらには河川堤防の崩壊といった壊滅的な被害を受けた。震災後、行政と地域住民が一体となって進められた震災復興により基盤整備が進められ、震災から90周年を迎える現在でも中心市街地の「大開通り」や「宵田通り」に復興建築群と呼ばれている建築物や、江戸時代末期から第2次世界大戦終結時(昭和20年)までに近代化手法によって建築された近代化建築群が数多く残っている。この貴重な町並みを調査・保存しかつ、先人が残してくれたこの遺産をこれからの豊岡のまちづくりに活かし、地域と連携を図ったまちづくりを進めるため、次世代に継承できるまちづくりについて考える。		
キーワード	復興建築物・保存活用・特産業の伝承・地域活性化・まちづくり・まち歩き		
出演者	<b>【ワークショップと討議】</b> コーディネーター 松原 永季 氏 (㈲スタジオカタリスト代表) パネリスト 中尾 嘉孝 氏 (NPO法人全国町並み保存連盟 理事) パネリスト 初田 香成 氏 (東京大学大学院 助教) パネリスト 玉田 浩之 氏 (大手前大学 准教授) パネリスト 林 勤 氏 (ひょうごヘリテージ機構H <sup>2</sup> O但馬)		

第6分科会	【たけの】	会 場：北前館 交流会：たけの体験村	定員：80人
テーマ	海と共に暮らす町 ～焼き杉板の町並みの再生～		
趣旨等	日本海に向かって続く小狭路地は、冬季になると強い北西風が吹き込む。焼き杉板の外壁は、横殴りに吹き付ける雨や雪から家屋を守るための技法であり、竹野浜の生活と歴史に基づいた町並みを形成している。しかし、現在は、過疎化の進行により空き家が増加し、焼き杉板の町並みが地域衰退の象徴と変わってしまった。竹野浜自治会では、かつて北前船で栄えた地域に誇りを持ち、伝統的な町並みを保存するため空き家の利活用を進め、地域再生の象徴となる活動を進めている。分科会では、参加者が地域に残る風景・町並みを実際に見て、地域の取組みに対する意見や外から見た目線でのアドバイスを出し合って地域活性化へ結び付ける。		
キーワード	焼き杉板のまちなみ・小狭路地・空き家・山陰海岸ジオパーク		
出演者	<b>【ワークショップと対談】</b> コーディネーター 中井 豊 氏 (中井都市研究室) アドバイザー 西村 幸夫 氏 (NPO法人全国町並み保存連盟 理事) 対談者 奥井 正造 氏 (環境意匠計画・奥井研究室) 対談者 地元大工を予定		